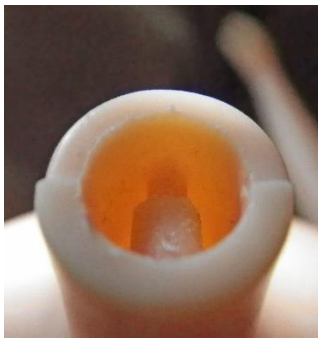


首のちぎれた人形 (ケース4)

2020. 11. 03 ゆきや

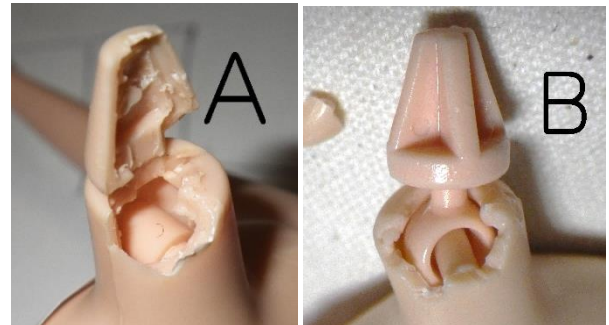
また、首のちぎれた人形さんが来ました。
リカちゃんの友達「つばさちゃん」です。
温度変化で髪の毛の色が変わるようです。
今回も、「トンガリ帽子 (仮称)」形の首の破片が、
頭の中に落ち込んだまま取り出す事が出来ず、
形状・寸法など良く分かりません。



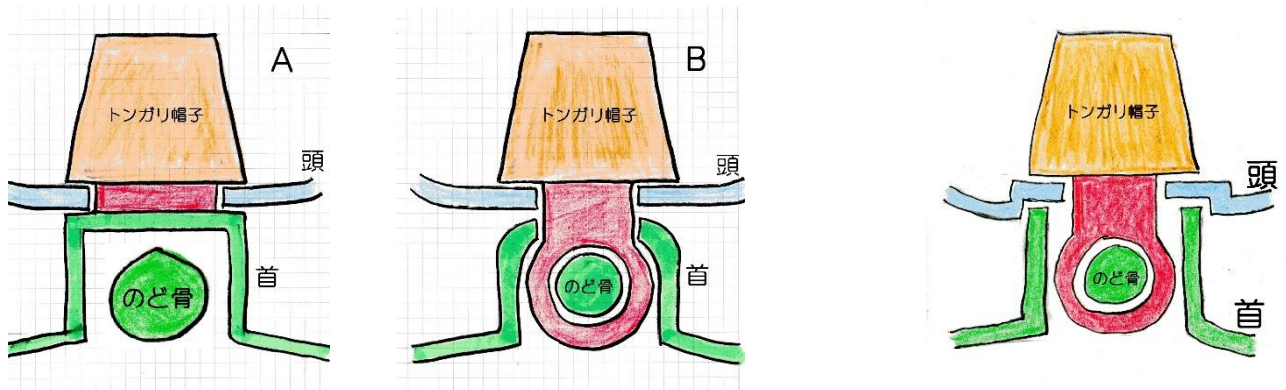
左の写真は、背中側から首の穴を見た所です。(内径7ミリφ)
破片を取り除くと、首の前後をつなぐ骨(「のど骨」と仮称します)
が
はめ込みで接着されている事が分かります。
頭を留める「トンガリ帽子」の根元のリングが、ここにはまっていた
訳です。
首の先端は直線的で、あまり整っていないので、頭の中に入って
見えなくなっていたのでしょう。(サイズはピッタリです)

首・トンガリ帽子で、一番多く見られるのは、**写真A**のタイプです。一体になっていて、
「のど骨」は太くしっかり作られています。
この形では、頭は左右に回るだけです。

一方、**写真B**のような例もあります。
これだと首は回るだけでなく、左右に傾ける
事もできるようです。この場合、「のど骨」は
リングを通す為、細めです。また首の先端は丸
みを帯びています。頭と首はここで接して、ス
ムーズに動いていたのでしょう。



略図を描いてみました。 今回の「つばさちゃん」の首も**B**に近いものでしょう。
首の長さ、頭と首の合わせ目など良く分かりませんがおよそは右図のような形でしょう。



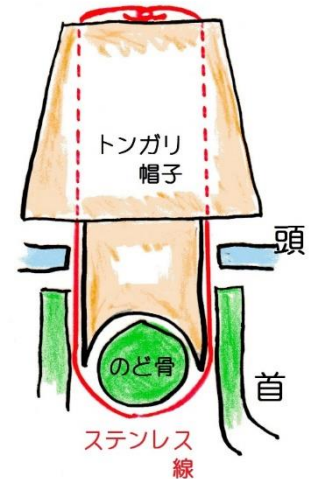
つばさちゃん 想像図

さて、トンガリ帽子～首の部品の復元です。

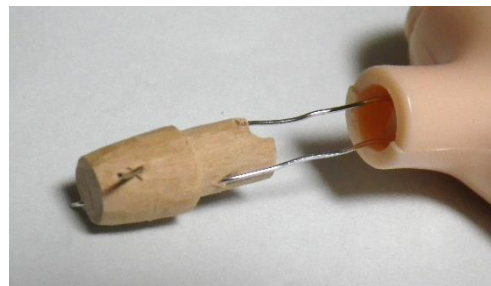
▲のように「のど骨」が太ければ、首の芯を2ミリφのネジで「のど骨」に留める事が出来ますが、今回のように細い「のど骨」では、その手は使えません。木の丸棒を首の穴に差し込み、それが抜けないように、「のど骨」に固定しなければなりません。そこで、右の略図のように考えました。（首を左右に傾げる事はもはや出来ません）



10ミリφほどの丸棒を削って、トンガリ帽子～首を作ります。首芯の下端は、「のど骨」に合うよう半円形に窪ませます。右図の様に、ステンレス線（0.5mm程度）をのど骨の下を通して引っ張り上げて、トンガリ帽子に縦貫した穴（図の赤点線）を通して、てっぺんで結ぶようにします。



右の写真は、その途中の状況です。首芯とのど骨の間には接着剤を入れて置き、ステンレス線をゆっくり引っ張りながら、首芯を徐々に首に差し込み、ステンレス線をシッカリ締め付けます。なんとか首の芯が出来ました。トンガリ帽子には中性洗剤を塗って滑りを良くします。頭の穴の周辺をドライヤーで温めて柔らかくし、祈るような気持ちで首をはめ込みました。



生き返った「つばさちゃん」です。トンガリ帽子～首のサイズを実測できなかつたため、首の長さ、頭と首の接合部など、成り行き任せですが、引っ張っても抜けない程度には、合ったようです。

依頼人（お母さん）からこんなメールが来ました。

『綺麗に治って帰って来た人形を見て、大喜びしています。一番大好きなつばさちゃん治してくれてありがとう！！と、叫んでおります。』

以上